

## 陳旧性アキレス腱断裂および再断裂に対し 自家ハムストリング腱を用いて再建術を施行した3例の治療経験

中 空 繁 登      千 賀 佳 幸      鈴 鹿 回 生 病 院 整 形 外 科      植 村 剛      福 田 亜 紀      加 藤 公  
三 重 大 学 医 学 部      ス ポ ー ツ 整 形 外 科      西 村 明 展

### 【はじめに】

アキレス腱の陳旧性断裂および再断裂例では、時に端端縫合が難しく、何らかの補強が必要になることがある。このような症例に、ハムストリング腱を用いて再建術を行った。

### 【症例】

2013～16年に当院でハムストリング腱を用いてアキレス腱再建を行った3例3足。平均は65歳で全例男性、陳旧性断裂2例と、陳旧性断裂にて他院の術後に再断裂を来した症例が1例であった。受傷から再建術まで平均6か月、術後観察期間は平均19か月であった。アキレス腱欠損部の補強に半腱様筋(ST)を用いた。近位・遠位の正常アキレス腱部にSTを通し、中央で交差させ、残ったST両断端は再建アキレス腱を覆うように縫合した。この際、近位・遠位断端の癒痕組織はできるだけ温存した。検討項目は術中・術後合併症、JSSF ankle hindfoot scale、両脚つま先立ち可能時期とした。

### 【結果】

当院が初回手術となった2例では癒痕組織を温存できたが、他院で縫合術を施行された1例は癒痕組織が切除されており腱成分のみでの縫合となった。術中・術後合併症はなく、癒痕組織温存の2例では両脚つま先立ちは4か月、3.5か月で可能、JSSF Scaleも98点、100点と改善したが、癒痕組織切除例では両脚つま先立ちに10か月を要し、JSSF

Scaleも90点であった。

### 【考察】

ハムストリング腱を用いた再建術は、患部外に侵襲が加わる欠点はあるが、機能障害は少なく、大きな欠損部にも対応できる利点がある。また、アキレス腱断裂の断端間は癒痕組織で埋まった後、経時的に腱組織に再生するとされ、陳旧性断裂において腱断端間組織を用いる方法が報告されている。自験例でも、癒痕組織を温存利用した2例では術後1年のMRIでアキレス腱は均一な低信号で肥厚し、良好な腱修復像がみられた。癒痕組織切除例でも術後13か月でアキレス腱の肥厚がみられたが、腱内高信号域が残存していた。腱修復はあるが治癒に時間を要するため、癒痕組織は温存すべきと考えた。